

令和初！夏の講演会・講習会を開催しました

元号が平成から令和になり近畿教育オーディオロジー夏の講演会・講習会も21回を数えることになりました。参加された皆さま方からお寄せいただいたアンケートから、この夏の学びを振り返りたいと思います。

令和元年 8月20日（火） 会場：ホテルアウリーナ大阪

○講演「聴覚障害教育の課題ー聴覚活用、言語指導、保護者支援を中心にー」

庄司 和史 先生（信州大学学術研究院 総合人間科学系 教授）

- ・“自分の思いを表現すること”“映像を言葉にすること”という話が印象的でした。子どもの思いを子ども自身が分かる言葉で言語化していくためのやりとりを丁寧にできているかを改めて確認して、生活言語を豊かにしていきたいと思いました。
- ・現場の身近な話を聞かせていただき、「なるほど！」と思うことがたくさんありました。離席の意味、視線の先にあるものにもっともっと深く入り込む事が大切であると考えさせられました。そして、つい先々言ってしまいがちな所もまずは子どもの“思い”を汲めるようになりたいと思いました。
- ・子どもの思いを大切にすること、それから言葉を広げていくことの大切さを改めて実感しました。“知らないことを言葉にすること”は本当に難しいことを感じ、今後の指導に活かしていきたいです。
- ・言語化について、言語化の方法、言語獲得、成長全般には人とのつながりが必要なこと、意欲を育てること、子どもの願いをねらいにすることなど、聴覚障害に対する教育だけでなく、他の障害や障害の有無に関わらず教育全般に通じることだと思いながら聞かせていただきました。



○講座Ⅰ「軽度・中等度難聴患者の補聴器診療の実際」

新田 清一先生（済生会宇都宮病院 耳鼻咽喉科主任診療科長）

- ・補聴器リハビリテーションという具体的な取り組みと、医師による見極めで安心して補聴器トレーニングができると知り、学校でもこのようなシステムを導入していきたいと思いました。校医や主治医との連携や保護者支援にも道筋が見えたように思いました。ありがとうございました。
- ・大人の補聴器のフィッティングと子どものフィッティングとの違いを比べながら聞くことが出来た。ことばで効果を理解させることは子どもに対しては難しいと思うが、理論を理解しておくことは教員にとっては必要だと感じた。
- ・補聴器の効果を実感できるような手立てについて実践の例から学ぶことができました。不快感を取り除くための丁寧な把握だけでなく、検査結果を提示し、「きこえる範囲が広がっている」ことを自覚させるという点は大切だと思いました。
- ・資料にもあった「補聴器によって脳が変化する」様子を想像しながら、子どもに指導したいと思いました。
- ・補聴器の目的、フィッティングについて、例をあげながらわかりやすく説明していただき、聴能の担当としていかせる内容でした。高齢者の例でもとは健聴だった人が難聴になった場合と先天的な難聴者の場合とフィッティングの方法は少し異なるかなとも思いました。



○講座Ⅱ 【聞こえのしくみと聴力測定】



・実際に聴力測定の機材を触りながら、測定の体験をさせていただいたり、難聴の方の聞こえ方の音を聞かせていただ

いたりと体感して聞こえのしくみについて学ぶことができ、とてもためになりました。実践に役立たいです。ありがとうございました。

【人工内耳の基礎】

・人工内耳の対象児がクラスにいても、転勤1年目のため人工内耳の扱いを前から



いる先生に任せていました。講座を受けて人工内耳の全てが分かったわけではありませんが、今日学んだことをこれからにリンクさせ、そして今より分かった状態で再度この講座を受けたいと思いました。

・私に関わる子どもが使っている人工内耳のしくみ、どのようにプログラムされているのか定期的に受診した際にどのような検査を受けているのかを知ることができた。

【補聴器の特性とオーディオグラム】

・ありがとうございました。専門的なお話で知らない事もたくさんありましたので、大変ためになりました。



【聴覚生理】

・詳しく説明していただき、自分の理解を確認できました。ABR、ASSR、OAEを聴覚生理と関連させて説明していただいたのが、分かりやすく今後に生かせそうでした。ありがとうございました。

・漠然と分かっているつもりになっていたきこえの仕組みを、より具体的に知ることができました。自分にとってかなり専門的なことばも出てきて、内容は難しかったのですが、後半にあった聴力検査や難聴

遺伝子についても、きこえの仕組みを詳しく知れたことで、理解が深まりました。時間が足りなかったかとは思いますが、遺伝子の部分についての内容をもう少し講座の中で詳しく聞きたかったです。



【自立活動幼稚部実践報告】

・各校の取り組みを聴覚学習の分野を中心に教えていただき、すぐに実践できそうなものもたくさんあったので、2



学期から取り入れてやってみようと思います。また、教師自身がしっかりと狙いを持って指導を行うことの大切さを改めて気づかされました。

・聴覚学習が聴能を育てるためでなく、生活に活かす、音の意味を理解することを通して人や物との関わりにつなげていくということを聞き、改めて大切だなと感じました。ありがとうございました。

【言語力評価】

・いろいろな言語力評価を実際に見せて頂くことができ、また実践例を丁寧にお話ししていただいたので、大変勉強になりました。



・様々な評価のための検査について紹介して下さっただけでなく、どう解釈するのか、その後どう指導するのか事例を交えて示していただいたので、とても参考になりました。明日から始業式ですが、早速購入して実施したいと思います。

【難聴学級での取り組み】

・難聴の児童がいる中で、すべきこと、取り組めていないことを改めて認識することができました。持ち帰って取り入れていきたいです。

・自己認識を高める取り組みの大切さを改めて感じました。将来を見通した指導をしていきたいです。

【乳幼児の教育相談】

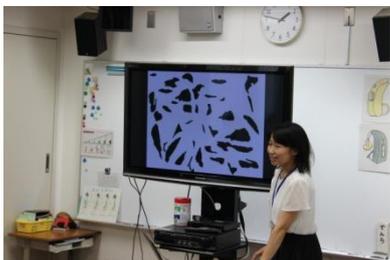


・カウンセリングをする上での心構えや大切にすることなど、分かりやすく教えていただき、今後の教育相談に活かしてい

けそうです。ロールプレイングでも楽しく学ばせてもらえました。

- ・とても分かりやすく、受けに来た甲斐がありました。まだまだ受けたい、もっと知りたいと思いました。是非、続編の講座をお願いしたいと思います。教えていただいたことをしっかり取り入れていこうと思います。

○講座Ⅲ 【聞こえのしくみと聴力測定】



・難聴児の体験ができ、聞こえにくい子ども達に日頃どのように関わればいいのか、とても勉強になりました。話している人が大

勢だと分かりにくいので、何の話をしているのかきちんと伝えて、子ども達に分かるということが一番大切なのだと学びました。

【人工内耳の応用・事例】

- ・事例検討ありがたかったです。マッピングデータの読み取り方を知れる機会がなかなか無かったので、またお願いしたいです。
- ・人工内耳の保守管理、修理にかかわる保険の仕組みについて理解することができました。

【はじめての補聴器フィッティング】

- ・普段は補聴器のことは聴能担当者に頼り、お任せしていましたが、今回とても分かりやすく教えていただき理解が進み本当に良かったです。



・補聴器装用閾値、利得の求め方など難しかったです。丁寧に説明して下さり大変勉強になりました。また、リニア増幅かノ

ンリニア増幅なのか体験することが出来、補聴器の調整についても理解することが出来ました。

【地域支援】

- ・地域支援の中で先生や保護者にどのように伝えたら良いか教えてもらえる場はなかなかないのでありがたかったです。
- ・聴覚に障害を持つ子どもがどのようなきこえをしているのか、また具体的に問題をあげ、その解決方法など非常に分かりやすく説明していただき勉強になった。



【補聴器のしくみと保守管理】

- ・今年度転勤し、所属校の新任新着任研修でも補聴器の研修があり、1学期を過ごした後の講座で確認ができました。また、ロジャーやテレコイルなど言葉だけ聞いたことのあるものについても詳しく知ることができ、また、補聴器の聞こえ方なども体験でき、有意義な講座でした。新着任者や地域で聴覚障害児にかかわる教員には、必須でおすすめですね。



【補聴援助システム】

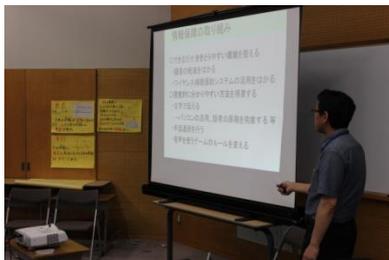
- ・実際の機器を体験させていただき良かったです。また、Q&A方式で事例とそれに対する見解や原因を知れて良かったです。
- ・補聴援助システムそれぞれについてのメリット、デメリットを比較してお話をしてくださったのでよ



く分かった。実際に機械を見たり触ったりできてよかった。

【難聴学級での指導】

- 普通の作文で、子どもが自然に耳のことに触れ、訂正方略に気づいていることが素晴らしいと思いました。障害認識の深まりを感じました。
- 普段聾学校にいと、難聴学級の様子を知ることができないので、今回具体的な指導を聞いて良かった



です。気持ちを考える機会、絵を見てストーリーを作るなど本校でも使えそうなヒントがたくさんありました。

【第1回ろう教育検定】



・久しぶりのテスト！どきどきしましたが、楽しかったです。解答の説明をもっと詳しく聞きたかったです。発音や口形等、自分の弱いところ

(知識がないところ)が自覚できて良かったです。

- ろう教育のいろんなジャンルのクイズを楽しみながら考えることができ、とても面白かったです。来年もあれば、是非参加してみたいです。表彰状も嬉しかったです。

運営について（開催時期、会場の変更、講座の時間、講座数、講座の内容など）

・昼食の持ち込みが可能な会場だとありがたいです。／資料にないスライドは写真に撮って良いか、講演が始まってからでは尋ねにくいので、あらかじめ教えて欲しいです。／参加したい講座がたくさんありすぎて、午前・午後1つずつではなく、全体的に3つぐらい講座に参加してみたかったです。／朝、エアコンがきつかったが午後少し調整出来ていて良かった（アウィーナ大阪）。

◎会場については概ね好評でした。また、開催時期については多様なご意見を頂きました。

☆ 来年はこんな話をききたい・・・

乳幼児教育相談／庄司和史先生の話／重複児の言語評価や取り組みの実際／地域支援／ろう学校卒業生（社会人）の話／卒業後の親子支援／当事者研究／サブと主担との連携／人工内耳のマッピング／安達康貴先生の話／聴覚情報処理障害／コミュニケーション／諸外国の聴覚支援・教育／難聴遺伝子／聴覚生理／言語指導／自立活動／聴覚学習／教科指導中のきこえの配慮／難聴児保育／中澤操先生の話／進路／社会参加後の支援／子どものフィッティング／軽中等度HAフィッティング／体験型の研修／聴覚＋発達障害／交流の場／きこえ以外で
※数多くのご意見や、改善案をいただきました。次年度以降の参考とさせていただきます。

今後の予定

令和元年

11月2日（土） 秋の講演会（大阪市:大阪府社会福祉会館）

「学齢聴覚障害児の日本語読み能力と学力」

加藤 哲則先生（愛媛大学教育学部 特別支援教育講座 准教授）

12月上旬 冬の学習会の案内 機関紙69号 発行

令和2年

1月31日（金） 第3回代表委員会（滋賀県立聾話学校）

2月1日（土） 冬の学習会（草津市：フェリ工南草津 予定）

「最近の難聴医療と教育との連携」

金沢 佑治先生（滋賀県立小児保健医療センター耳鼻咽喉科副医長）

「聴覚障害のある児童生徒の言語

～培われたものから自ら発信して繋ぐものへの変容～

高井 小織先生（京都光華女子大学健康科学部医療福祉学科 准教授）

3月下旬 集録第21号発行・機関紙70号発行

近畿教育オーディオロジー研究協議会事務局

事務局長 内門 祐

〒640-8272

TEL：073-424-3276

和歌山県和歌山市砂山南3丁目1番73号

FAX：073-424-0310

和歌山県立和歌山ろう学校内

メール：uchikado-y002@wakayama-c.ed.jp